

暖地麦類の赤かび病抵抗性およびマイコトキシン産生抑制型遺伝資源の探索

山口修*・塚崎守啓・内村要介・古庄雅彦（福岡農総試）

各麦類育成地からの育成系統及び指標品種の赤かび病抵抗性評価において、見かけの罹病程度で完全に抵抗性を示す系統はなかったものの、極強と判定したものは2003年産で71系統中17系統、2004年産で146系統中10系統あった。一方、デオキシニバレノール（DON）産生量と見かけの罹病程度は必ずしも一致しなかったことから、赤かび病抵抗性でDON産生量の低い系統を選抜するには、罹病程度とともにDON産生量も測定する必要があった。その中で、外観での判定が強以上でかつDON産生量が低い系統は8系統あり、抵抗性品種育成に活用できると考えられた。